

GSIC 主催・モンゴル教育文化科学省共催シンポジウム ICT Use in Education in Mongolia

モンゴル教育文化科学省と東京工業大学学術国際センター・理工学大学院国際開発専攻の協働のもと、教育における ICT (ICT Use in Education) をテーマにしたナショナルワークショップと国際シンポジウムが、2010 年 11 月 11-12 日にモンゴルの首都ウランバートルで開催されました。会議にはモンゴルから教育科学文化省の ICT 専門家や教育関係者、国際開発関係者、関連分野の大学教授、小中学校教員代表、ICT 企業代表などが参加しました。それに加え、UNESCO アジア太平洋地域事務所 (UNESCO Bangkok) の ICT 教育担当者、東京工業大学の共催チーム、韓国からの ICT 教育開発企業代表等を含め、計 70 名が出席しました。

国際シンポジウムの前日に開催されたナショナルワークショップでは、教育の現場への効果的、効率的な ICT の導入を促進するための政府の戦略、関連ソフトウェア開発や情報技術インフラ環境の現状、ウェブベースの教員研修の事例等、30 件に及ぶ多方面からの発表、事例紹介が行なわれました。また、オープンソースと Windows への賛否に対するディベート、教育管理情報システムや非 IT 教員の ICT 基準、教育における ICT プロジェクトの持続性など様々な発表と議論が行われました。

12 日の国際シンポジウムでは、モンゴル教育文化科学省次官の開会挨拶の後、UNESCO Bangkok の ICT 教育専門家 Dr. Miao からはアジアの教育における ICT の現状と動き、東京工業大学 GSIC 山口しのぶ教授と国際開発専攻の高田潤一教授チームからはモンゴルの基礎教育における ICT 利用状況へのベースライン調査の結果、日本における教育分野での web-portal 活用の現状に関する基調講演が行われました。さらに、韓国 ICT 企業による教育機関と ICT 企業の協力による教育の質の向上プロジェクト、日本企業とモンゴルの小中学校とのジョイントプロジェクト、同分野における世界銀行やアジア開発銀行による国際開発プロジェクトも紹介され、モンゴルの教育における ICT 戦略ペーパーが議論されました。

本ワークショップと国際シンポジウムは参加者にとって、実施中のプロジェクトの経験や異なるアプローチ、他国での ICT の効果的利用情報の共有や交換ができ、教育における ICT 導入の問題および解決策および教育における ICT 政策を促進すると評価されました。



図 1 シンポジウムの全景



図 2 開会挨拶



図 3 現地開催者と共に



図 4 発表風景